

早稲田社会学会ニュース 第18号

2001年8月24日発行

早稲田社会学会事務局

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部 社会学研究室内

.03-5286-3742

E-mail: t_enomoto@nifty.com

今回のニュースの内容

1. 第53回早稲田社会学会大会の報告
2. 早稲田社会学会総会の報告
3. 2001年度の研究助成について
4. 入退会者のお知らせ
5. 学会費納入のお願い
6. 転居先不明者についてのお尋ね

1. 第53回早稲田社会学会大会の報告

第53回早稲田社会学会大会は、2001年7月14日(土)に早稲田大学文学部(戸山キャンパス)第1会議室において開催されました。報告者および報告題目、司会者は次のとおりです。

一般報告

司会 大屋幸恵(武蔵大学)、杉本昌昭(早稲田大学)

報告者

熊本博之「社会運動の社会心理学的考察 なぜ社会運動に参加するのか」

堤 隆夫「わが国の医療保険制度と新自由主義、そしてエイジズム」

麦倉泰子「知的障害者施設のエスノグラフィー カテゴリー化とスタッフ・コード」

福留晶子「LD(学習障害)児の自己教育についての一考察 個別的な英語教育実践をととして」

シンポジウム

テーマ: IT革命と地域社会のリストラクチャリング

司会 天野 徹(江戸川大学)

報告者

小林宏一(東京大学社会情報研究所)

「地域情報化の新しい展開 電子自治体とコラボレーション」

富永一夫(NPO Fusion 長池 代表)

「ネットワークを活用しての組織・階層を越えた地域づくり運動の広がり」

廣川聡美(横須賀市企画調整部情報政策課)

「ITによる自治体経営改革」

討論者 佐藤慶幸(早稲田大学)、浦野正樹(早稲田大学)

シンポジウム報告(研究活動委員会委員 杉本 昌昭)

第一報告者小林氏の総括によれば、日本における従来の地域情報化政策は中央省庁が上から主導したハコモノ主義的なものであり、地域社会に対する「社会学的想像力」を欠いていたために、地域社会活動と地域情報システムを結びつけることができなかった。今大会のシンポジウムは、このような構図を背景として、近年の「IT革命」がこれまで十分に実現されてこなかった地域情報化政策をどのように変化させつつあるのか、実践家および行政マンというまた別の立場から地

域情報化にとり組む二人の報告に基づいて検討するものである。第二報告者富永氏は多摩ニュータウンにて福祉・生活支援・レクリエーション等多彩な地域活動を行う NPO「NPO・フュージョン長池」の代表である。氏の活動としては、同地域に高速インターネット・サービス(ADSL)を誘致し、地域活動の活性化を促したことが知られているが、報告では、これに加え、高速インターネット網の敷設に先立つ地道でアナログな対面状況での活動、地域活動組織を NPO 化した背景・経緯など、興味深い逸話が開陳された。第三報告者廣川氏は横須賀市役所情報政策課長としてインターネットを通じた公共事業の入札システムを導入した人物である。報告では、このような基礎自治体レベルでの情報化を実現する諸前提として、意思決定方式や人事システムの改変、若手登用の実現がいかに行われてきたのか、その経緯が説明され、また討論者浦野氏の質問に答え、地域住民と行政情報システムとのコラボレーションについて事例・計画が紹介された。両報告で興味深い点は、富永氏が地域活動の一成功要因として同地域住民の同質性を挙げ、廣川氏が組織論的な観点からボランティアの重要性に言及していた点である。前者は小林氏のいう地域社会に拘束された地域情報システム(ネットワークの存在被拘束性)という観点とも共通する実践感覚であり、後者は討論者として質問を行った佐藤氏の議論に通底する組織観であった。このように興味深い議論が行われたものの、小林氏の提出した政策史とは別に、司会者天野氏が専門とする都市社会学的な地域づくり運動史に絡めた議論ができなかったこと、「成功事例」の紹介に加え、失敗の事例研究もまた必要なのではないかという点、またさらに欲をいえば リストラクチャリングされる地域社会の普遍的・一般的将来像が十分に提示されなかったことが残念に思われる。(文責：杉本昌昭)

2. 早稲田社会学会総会の報告

2001年7月14日に、大会に引き続いて開催された総会において以下の議案が提案され、慎重な審議の結果、すべて原案どおり可決されました。

- 1) 2000年度決算案の報告と承認(同封の決算報告をご参照ください)
- 2) 2000年度会計監査報告(同封の決算報告をご参照ください)
- 3) 2001年度予算案の審議と承認(同封の予算報告をご参照ください)

また、同総会において以下の事項が報告されました。

- 1) 理事会および研究活動委員会、編集委員会の活動報告(2000年7月～2001年7月)
- 2) 2001年度研究助成の申請と採用の経過について(庶務担当理事、第4項をご参照ください)
- 3) 未納年会費の取り扱いについて(庶務担当理事、「学会ニュース」前号(第17号)をご参照ください)
- 4) 『社会学年誌』「投稿規定」および「執筆要項」の一部改訂について(編集担当理事)
- 5) 「会計支出に関する基準(内規)」の改訂について(会計担当理事)

3. 2001年度の研究助成について

5月末日の応募締切までに4件の申請がありました。それぞれの申請書につき理事会で慎重に審査した結果、以下の2つの研究への助成が決定しました。

研究題目：「新明正道における「東亜新秩序」論の展開」
研究代表者：道場親信(早稲田大学文学部・日本大学非常勤講師)
助成額： 20万円

研究題目：「高齢期における「移住」 自己決定して移り住む人たち」
研究代表者：高田知和(早稲田大学第二文学部非常勤講師)
助成額： 10万円

4. 入退会者のお知らせ

2001年6月16日開催の理事会において以下の方々の入会が承認されました。(以下、敬称略)

熊本博之(早稲田大学大学院文学研究科)
堤 隆夫(早稲田大学大学院人間科学研究科)

麦倉泰子(早稲田大学大学院文学研究科)

以下の会員から退会届が提出され、理事会において報告・承認されました。

2001年6月16日理事会

岩倉尚実	加藤諦三(早稲田大学理工学部)	小暮光三
南 良郎(東海大学名誉教授)	山崎正矩	
吉沢四郎(元中央大学教授)	永瀬隆雄	

2001年7月14日理事会

松本知子(駐デンマーク日本大使館)

以下の会員がご逝去されました。

星川 進(武蔵野美術大学) 米内俊尚(会社役員)

5. 学会費納入のお願い

本年度の学会費が未納の方、および過年度分の未納がある方宛てに、振り込み用紙(お名前と該当の未納年度を印字しております)を同封いたします。早急にお振り込みくださいますようお願い申し上げます。なお、本状と入れ違いになりました節はご容赦ください。

口座番号: 00100-3-38020 (郵便振替)

加入者名: 早稲田社会学会

(年会費: 一般会員 5000円 学生会員 3000円)

複数年度分の会費を納入される場合、および転居・異動などがあった場合には、通信欄にその旨を明記ください。

「学会ニュース」前号(第17号)でお知らせしましたように、事務局では「未納会費の一部が納入された場合には、1997年度以降の最も古い年度の未納分から優先的に充当」する処理をとっております。したがって、本年4月から8月までの期間内にお振り込みいただいた会費が、本年度(2001年度)分ではなく、過年度の未納分として充当されている場合もあります。ご了承ください。なお、年会費の納入記録についてのお問い合わせなどがありましたら、事務局幹事 榎本(t_enomoto@nifty.com または 03-5317-2708)までご連絡ください。

6. 転居先不明者についてのお尋ね

事務局では、本年8月現在、下記の会員の連絡先を把握できておりません。お心当たりのある方がおられましたら、是非事務局までお知らせください。

所属先は登録時のものです

安 泰(早大文学研究科)	池田佳隆(大阪府立高校)	入江良英(早大文学研究科)
岩田照丈(地域開発研究所)	岩淵祐二	大山光太郎(日本IBM)
叶堂隆三(九州国際大学)	金子光亮(大阪大学大学院)	川瀬 誠
金 貞恵(早大文研研修生)	工藤公仁(北海道庁)	小林新吾(ジャパンマーケッティン&リサーチ)
謝 秀芬	神保裕臣(神奈川労働基準局)	竹原由佳子
立松隆介(早大文学研究科)	田中直子(早大人科研究所)	西村実喜(株)尾花産業
野元美佐	黄 元淳(早大人間科学研究科)	
藤井 智(大田実業専門大学(韓国))	前田朋子(早大人間科学研究科)	松川昭子(早稲田大学)
柳原国毅(電通PRセンター)	江 新興(早大文学研究科)	

以上